

# 令和8年度 地域課題解決に取り組む高校生サミット 実施要項

兵庫県立尼崎小田高等学校  
校 長 平野 明美  
SSH推進部長 平島 拓真

## 1. 目的

環境の研究は、他地域との連携によって、一地点を見ていただけでは分からなかったことが見つけられる研究である。平成23年度から、同じ海（または水環境）をフィールドとして取り組んでいる瀬戸内海地域の高校生の情報交換の場として高校生フォーラム（後に高校生サミットに発展）を開き、平成24年度からは、コアSSH、SSH交流会支援、SSH重点枠の指定をそれぞれ受け、参加者が互いに知識や経験を共有し、各自の能力を高める成果を得てきた。

これまでのSSH重点枠の成果から、府県を超えた多種多様な校種との連携による交流が、互いの生徒を刺激し合い、校内の取組以上に相乗的な効果が得られ、連携校の学校がそれぞれ中核として発展させる程大きな成果を挙げている。

IV期SSHの重点枠では、瀬戸内海の府県を超えた高校生や専門機関等と共創しながら主体的・科学的な探究活動により、地域の学際的課題の解決に取り組む効果を踏まえて、瀬戸内海から兵庫県の多種多様な地域の課題を考えることを通して、全国の問題を考えることに発展させてきた。これまでの連携校8校で組織してきた生徒実行委員会をさらに発展させ、多様な地域の様々な校種の連携校と探究活動を開発した方法は、汎用性ある探究活動を通じた人材育成の方法として、全国的に通じるものとなる。「持続可能社会構築を実践するグローバル人材の育成」の一層の充実を目指すため、これまで実施したSSH重点枠による生徒の「コミュニケーション力」や「マネジメント力」を育成する取組をさらにステップアップさせ、環境や防災等、持続可能社会構築のための地域社会における学際的な課題に対して、「地域の中で行動する力」「地域の課題解決に向け提言する力」「地域に貢献できる力」を備えた科学技術人材を育成することを目的とする。

## 2. 実施における仮説

- a. 「瀬戸内海」という共通のフィールドにおける取組を基に、日本の縮図である兵庫県の多様な学際的な地域課題への取組へつなげていくことができ、そのことから全国の地域課題解決を考えていく応用となる。
- b. 多様な地域の多様な校種の高等学校の連携により、学際的な視点での物の見方を育成することができる。
- c. 生徒主体で企画運営をすることにより、マネジメント力やコミュニケーション力を育成することができる。
- d. 他校連携を通して「高度なディスカッション力」や「地域課題解決に向け提言する力」の育成から、地域で活躍できる「シェアド・リーダーシップ」人材の育成を図ることができる。
- e. 地域課題解決に取り組むための探究スキルを身につける人材育成プログラムを開発・提言することができる。
- f. オンラインを活用した連携を図ることで、遠隔地との持続的な連携や新しい連携の方法開発ができる。

## 3. 共同テーマ

これまでの瀬戸内海の取組を発展させた新しい取組として、海の環境等の地域課題に加えて、内陸の様々な環境等も考える、海、川、森のつながり、里山と里海の環境のつながりの視点で、日本全国様々な地域での課題について考えることを共同研究テーマと設定して取り組む。瀬戸内海沿岸の地域をコアとし、様々な地域の高等学校による地域課題の研究発表や情報交換を行い、共同テーマである環境、里山と里海のあり方や人のかかわり方を考え、地域課題を環境のつながりから議論をし、それを考えていく取組を行う。

大テーマ「人間と自然の共存を考える」

テーマ「環境のつながりを考える～海と山のつながり～」

海と山のつながり（海、川、森）→里山と里海について考える  
環境のつながりを通して、環境と人間社会のつながり、さらに環境とテクノロジーのかかわりなどを考える。

#### 4. 実施内容

##### (1) 環境や防災分野など地域課題の研究や取組の共有

「瀬戸内海」というフィールドをコアとして、環境や防災分野等の地域課題の取り組みと通し、様々な地域での実践活動について考える。

##### (2) 高校生サミットの事前ワークショップ「地域課題を深めるワークショップ」の実施

地域課題解決に取り組む高校生サミットへ向けて、高校生サミットの共同研究テーマで共有すべき内容や背景となる知識を学習するために地域課題を深めるワークショップを実施する。各ワークショップで、講義と実習を通して学び、その学びを深めるために学びの振り返りのディスカッションを行う。各ワークショップ参加生徒は生徒実行委員として、その学びを様々な他校の生徒に発信、ともに議論する役割を担う。

##### (3) 生徒実行委員会による企画検討

地域課題解決に取り組むサミットでさらに様々な高校生を巻き込んで議論をすべく、事前に行われる地域課題を深めるワークショップの参加生徒が主体となって、企画検討を行う。

##### (4) 高校生サミットの実施

生徒実行委員生徒が中心となり、連携校による研究発表、グループディスカッション等を行う高校生サミットを運営・実施する。

①各校の地域課題について研究内容の発表による情報共有・情報交換

②ボード・ディスカッションでのグループディスカッションによる、様々な高校生への情報の発信をおこない、ともに議論を行う。

##### (5) 高大連携フォーラム in 京都大学の実施

生徒実行委員がこれまでの高校生サミットの取組を大学という場で伝えるべく、京都大学で高大連携フォーラムとして実施する。高校生サミットでは主に高校生同士の交流が中心であるが、この高大連携フォーラムでは、大学生・大学院生へ向けての発表、意見交換、交流と、高校生サミットのときよりもさらに内容が発展し、考察を深化させるものとする。

##### (6) 連携校との合同研修会（ミニワークショップ）・情報交換会の実施

必要に応じて連携校による合同研修会（ミニワークショップ）を行う。また、連携校と情報交換の機会をつくり、課題の共有化を図る。

##### (7) 地域課題解決に向けた人材育成の開発

環境や防災等、持続可能社会構築のための地域社会における学際的な課題に対して、「地域の中で行動する力」「地域の課題解決に向け提言する力」「地域に貢献できる力」を備えた人材の育成を目指す。

連携校の生徒や連携機関の実践の共有、さらに新たな課題解決に向けてのさらなる実践や周知・普及活動を行なう。また、生徒の成長到達度についての評価研究を併せて行う。

##### (8) 共同研究の実施

瀬戸内海や兵庫県等の地域における環境・防災等の地域課題に関して、連携校が共有して考えていく共同研究を検討する。

##### (9) 検証評価

生徒実行委員会校の参加生徒に対して、ポートフォリオにより学びを記録し、その変容を評価する。また、これまでの重点枠で開発した、連携校生徒により構成する生徒実行委員会の生徒の「コミュニケーション力」や「マネジメント力」の伸びを評価するループリックを継続的に用いる。生徒自身の

自己評価においても、生徒実行委員会の活動をする中で「コミュニケーション力」や「マネジメント力」が身についたことを実感している結果から効果を確認する。また、ワークショップやサミットに参加した生徒のアンケート調査を、生徒実行委員と研究参加生徒、対面参加とオンライン参加などに分けて集計、比較分析して、取組における効果について検証する。これらの生徒の変容について京都大学大学院教育学研究科と連携して、高校生サミットに関する一連の取組における生徒の身についた力の伸びを確認する。

## 5. 連携校

### ◆連携校A

瀬戸内海をフィールドとして環境等の地域課題に関する研究を行っている高等学校を中心に、全国沿岸部の様々な地域の高等学校とも連携する。

### ◆連携校B

兵庫県の環境・防災問題等の地域課題に関する研究を行っている、様々な校種の高等学校と連携する。

## 6. 実施日程

7月18日（土）事前ワークショップ①地域課題を深めるワークショップ（須磨）

「里海を考える」（神戸市 須磨海岸）

※参加者は事前打ち合わせ（7月10日）、高校生サミットへ向けての事後打合せ（7月24日）をリモートで予定しています。

10月25日（日）事前ワークショップ②地域課題を深めるワークショップ（ひとはく）

「里山を考える」（三田市 兵庫県立人と自然の博物館）

※参加者は事前打ち合わせ（10月16日）、高校生サミットへ向けての事後打合せ（11月1日）をリモートで予定しています。

11月14日（土）地域課題解決に取り組む高校生サミット（兵庫県立尼崎小田高等学校）

※各校の地域課題に取り組む課題研究の発表を行う（リモート発表も予定）。

※事前ワークショップ参加者は、生徒実行委員として、事前ワークショップでの知識の共有、初めて参加の高校生とも議論を行う。

12月19日（土）高大連携フォーラム in 京都大学（京都大学）

※各校の地域課題に取り組む課題研究の発表を行う。

※生徒実行委員は、高校生サミットでの議論をさらに深めるべく、大学生・院生と交流を行う。

## 7. 参加生徒

### <生徒実行委員>

環境等の地域課題について、各校で課題研究を行っている生徒、並びに興味をもちテーマについて議論をおこないたい生徒。事前ワークショップごとに募集します。各ワークショップ参加者は、高校生サミットの生徒実行委員として、事前ワークショップの内容を他校生徒に広げ、ともに議論する役割を担います。サミットや高大連携フォーラムへの参加もお願いします。高校生サミットでは各校の課題研究の発表も行ってもらいます。

（各事前ワークショップの参加は尼崎小田の生徒も含め40名までとさせていただきます。）

### <高校生サミット研究参加生徒>

高校生サミットにおいて、各校での課題研究の発表を行い、さらに地域課題について生徒実行委員とともに議論を行いたい生徒。

※各校引率の先生のご参加もお願いします。

※各ワークショップは1か月前、サミット等は2か月前には生徒募集を行う予定です。

## 8. 旅費 交通費は、各校負担でお願いいたします。

## 9. その他 この件に関するお問い合わせは、下記の連絡先にお願いします。

兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH推進部長 平島 拓真 takuma_hirashima●hyogo-c.ed.jp メールアドレスの●を@に変更ください 〒660-0802 兵庫県尼崎市長洲中通2丁目17-46 TEL 06-6488-5335 FAX 06-6488-5337
--